

皆さんからのお便り!

人生いろいろ 思い出いろいろ

NPO解散にあたって



川原 邦孝(東区)

私は2013年の夏、藻岩山頂で出会った本間栄子さんの紹介でこの会に参加しました。その頃、本間さんは100名山を目指して頑張っていました。

「私は高い山よりも、各地で愛されている低山歩きが好きです」と答えると、「それなら札幌森友会がぴったりですよ」と勧められました。しばらくは登山とウォーキングに参加しましたが、途中からはボランティアだけ参加することにしました。私はマイペースでのんびり歩くのが好きなのです。私の人生もそうです。39歳で脱サラしてから、山歩きしながらのんびり働いてきました。最近では墓友(樹木葬の)作りも始めました。樹木葬希望者が増え続けているようです。

森林ボランティアを続けながら、災害時の避難小屋作りの実験も始めようと準備しているこの頃です。入居期限のない自家用避難小屋作りは有償ボランティアにつながるのではと考えています。

思い出

山本 敬子(手稲区)

札幌森友会の会員として10年間在籍し、会長が体調を壊された時のショック、早く回復することを祈るばかりでした。週一ペースで同級生と行事に参加して、最初は足元ばかり見て余裕がなく、カタカナを漢字に置き換えて覚えたものです。サクラ島での植樹やお花見にも参加して感動したこと。いつのまにか100名山北海道の9座を登り終えていたことは私にとっての自慢で最高の満足感でした。

また平成24年には、念願の熊野三山、高野山詣でに参加させていただき、懐かしい仲間と共に毎日が至福のひとときで、宝物を持ち帰りました。自然のふれあいを楽しみながら、さまざまな経験を沢山させていただきありがとうございました。最後になりますが、社会貢献活動にいろいろな分野でのご活躍、永い間お疲れさまでした。会長はじめ役員の方々の方々のすべての人達に感謝です。札幌森友会バンザイ!

ちょっと一言

石井 佳子(東区)

今日は、先日は総会に出席出来ず失礼致しました。後日資料を沢山送って頂き感謝しております。私は若い頃の趣味で盤景をやっていた、風景や崖山などを浮彫刻して表現し眺めて楽しんでいました。実際の登山で見たくなり片方からの見かたと違い、時に崖などは裏側の凄く変化を見て吃驚して山登りすることが好きになりました。若い頃はガイドさんを月に2、3回行ったと思います。

森友会では森林の手入れや、子どもたちとの下草刈りもあり、優しい山登りも高齢になるとほっとします。今年もよろしくお願い致します。

新緑の季節

井村 芳次(南区)

春、冬眠から目覚めた北国の動物は春が待ち遠しかったことであらう。雪が溶けた山々の木々は冬芽から一斉に芽吹き始め葉を展開し活動を始めます。まだ山に残雪があるうちに咲く花「キタコブシ」いや、まだ早く咲く「ネコヤナギ」があります。山野草では「福寿草」5月の初めは「カタクリ」の美しい花が人々の心を癒してくれます。5月初旬には「エゾヤマザクラ」が咲き誇ります。6月初旬には山々の木々の葉は展開揃いとなり、新緑の季節です。6月は「ジュンブライド」など一番美しい季節です。

感謝

高田 繁(手稲区)

退職後2年程が経ち、無聊を詫(かこ)っていた時、たまたま「ちえりあ」で勧誘パンフレットを見て入会させて頂きました。

寒いのが苦手、活動は毎年5月からと決め、年間20数件を目標に、豊富な行事の中から選ぶのも楽しい年初めの作業でした。

年金生活に入り、小遣いも減額され、もっぱらボランティアと近隣の軽登山にと10年程、お世話になりました。参加した行事の半分以上は、ボランティアで、毎年「うるし」にかぶれるのには参りましたが、草刈機とチェーンソーの使い方を教わり、気持ちの良い汗を流しました。

現役時代は、ジム通いとマラソンで、運動はしていました。会長の山における豊富な知識と時々の判断力には、いつも敬意を持っていました。

お陰様で、色々な山に連れて頂き、又沢山の山野草の山前を知ることができました。

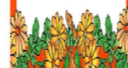
山野草の管理方法を学ぶ「育ての親塾」で戴いた鉢は、我が家の庭で、その後買い求めた山野草と共に育て、楽しみの一つとなっています。

会長と影で支えた奥様には、私の余生の生活に彩りを添えて頂き、感謝いたします。

冬の川己れを律し流れけり

皆さんからのお便り!

人生いろいろ 思い出いろいろ



小林会長ありがとうございます

行天 純子(清田区)

山登りがしたくて札幌森友会に入会しました。頂上に立った時、登りの辛い苦しかったことも吹っ飛び感動したこと、あこがれの尾瀬ヶ原・熊野古道・礼文島など素晴らしい沢山の思い出の風景など忘れられません。いろいろな所に連れて行って頂きありがとうございます。

地球温化防止の植樹・育樹・エンジューラの景観整備の除伐作業はきつかったけど、森に陽が射し明るい森に変化するたびに、苦労も消え団結力に感動したこと、さっぽろふるさとの森づくりの茨戸川緑地は測量から始まり立派な森になり誇らしい体験活動でした。第1回さっぽろ環境賞・札幌市長賞などのごほうびに一層熱き思いに掻き立てられ夢中で取り組みました。

子どもたちとふれ合い、共に学び森の大切さを伝え、継承されることを一途に願ひ、共に輝いた時間を実感したことも大きな喜びでした。

小林会長に出会い、札幌森友会・森林遊びサポートセンターの仲間たちと、希望・理念を共に志し、心ひとつに邁進してきた活動は、共に生きていく糧であり財産となりました。小林会長は尊敬・敬愛する師です。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

小林会長 会は永遠に不滅です



島山 正明(北区)

ショックでした。以前から役員の矢島さんから会の近況を教えて頂いたので、元会員の私なりに会の方向性を思っていました。いざ会長から「会の解散決定」の文書を読んだが大変ショックを受けました。会での思い出が走馬灯のように回りました。

40代半ばから札幌森友会のお世話になり、自然や登山に関心のあるその程度の私を人並みに成長させてくれたのも会長、役員、会員の皆さまによることと感謝しています。会では企画して山仲間を案内できるまでになりました。

いろいろお世話になりながら何のお返しも出来ませんが、札幌森友会・森林遊びサポートセンターに関わった皆さまも、会で培った諸々を各々の分野で生かせたらと思います。残りの人生で疲れた時には、育てた森林を訪ねて成長した木々から元気をもらい、元気に過ごしたいですね。

会長には感謝感謝で言葉もありません。私たちの心の中にある小林会長は永遠に不滅です。ありがとうございます。

ボランティアの森づくり活動の取り組みが新聞各紙・広報紙等に掲載されました。

野村 光彦(西区)



2018年の新年会と同じホテルで2019年度の新年会となりました。来賓(そよかぜ観光社長様)と理事、会員で16名。中川さんの司会から始まり小林会長の挨拶、会長の左胸に森友会のバッジがあるものの何か元気がありません。円卓テーブルでは私の正面に会長が陣取り何か考案事している様子。今年は平成最後の年、天皇陛下の退位、そしてNPO法人森林遊びサポートセンターが任意団体の「森友会」となる年です。

さぞ残念な気持ちで色々考え深い年では。私もこの会に参加して12年になるのです。私なりにビックリしています。(探したら2006年の「もりのとも」第17号が見つかりました)表紙は浦嶋好江さんの描いたノブドウの植物画でした。松山賢一さんの情報オアシスの記事、内容が濃いんですね。それと一期一会(いちごいちえ)三通りの人は?山田光雄さんの特殊技術マンの登場です。作製された標柱の文字の美しさに敬服。多田貞志さんの短歌今ここに一本に木を植え後の世にいつ迄も残れ緑の大地に心に残る名句です。「かいちょう日記」は「支笏湖周辺台風被害・復興の森づくり」についての内容。大学生高校生等留学生も参加しています。「今どきの若者ワ!と、まだまだ捨てたものではない」と会長の感動のコメントが。

小林会長には、これからもサポート役及びアドバイスをしていただき、これからも「森友会」の「力」になってくれることをお願いいたします。私もできる限り協力したいと思います。

解散にあたり「感謝」

佐々木 昭子(西区)

今年の行事予定表が届くのを楽しみにしていましたが「解散」の文字に本当に残念でなりません。しかし小林会長はじめ会を運営して頂いた実行委員の皆さまには、長い間ご尽力いただき感謝申し上げます。年何度か参加させていただき、いろいろな野山、緑地、山などに連れて行って下さり、その時々で会長から植物の生態などを、いろいろ教えていただき、その知識に感心するばかり学ぶことができました。本当にありがとうございます。

(私の手元に会長の自宅「深山草花塾」で作りました「小さな盆栽」があり今も元気に育っています。これからも心を込めて育てていきたいと存じます。)

行事活動では日頃お会いしていない会員の皆さまとも「山が好き 自然が好き」の波長が感じ、すぐに打ち解けることができ、楽しい時間を一緒に過ごさせていただきました。皆さまありがとうございます。

小林会長はじめ、会員の皆さまの健康をお祈り申し上げます。

もりのとも 表紙絵美術館

(ポタニカルアート)

浦嶋 好江